

# 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第177回哲学カフェ例会(2023,3.9)

### 《人口知能(AI)は人間社会にどのような影響をもたらすのか?》

「AIの問題は具体的になじんでいる人が少なく、意見交換しにくいと心配していました。だが、いろんな角度から意見が出されたいへんよかったですと思いました。」

#### <問題提起> 主宰者:吉田千秋

・今日は様々な領域で導入が始まっているAIが私たちの生活に与える影響を考えてみたいと思います。AIはArtificial Intelligenceの略語で、通常は人工知能と訳されています。AIは言語の理解や推論、問題解決など、これまで人間にしかできなかった知的行為を人間に代わって行う技術のことです。言語を理解し、画像から状況を認識するAIが様々な分野で使われることになって、私たちの社会生活にかつて18世紀19世紀にイギリスで始まった産業革命に匹敵する大転換をもたらされることが想定されています。

・既に様々な分野でこの技術が活用されています。囲碁や将棋でも使用され、今話題の藤井聡太さんを始め、プロの棋士たちの技量の向上に欠かせないものとなっているようです。最近話題になっているがチャットGPTというもので、ハーバードなどの米国の大学で、学生のレポートがこれをかなり利用していることでした。ひと昔前にコピペと言われたものが、今はこのチャットGPTに質問するだけで、それなりのレベルでの回答が得られる時代になってきたのです。

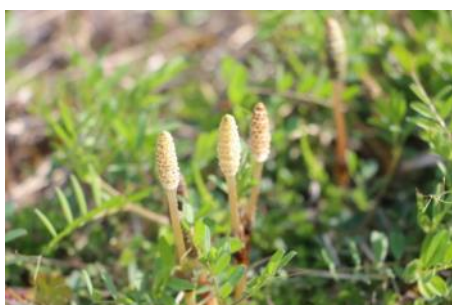
・AIは人間の知的作業をかなり高度のレベルで行え



ます。まずどんなメリットがあるのか。生産、労働の領域では、人間に代わってAIに作業させることで効率を上げて、より大きな経済的な利益をもたらすでしょう。先月、農業危機の問題を議論しましたが、政府は農業経営の効率化を目指して、農家にAIの導入を推奨しています。AIは人件費の削減と労働力不足を補うための切り札と考えられているのです。

・また人命尊重の観点から、元々人間に任せることの困難な危険な作業をAIを使った自立型ロボットに代行させるも考えられます。ロボット技術の開発はかなり以前から進められて来ましたが、AIを使うことで、人間が把握できない現場、例えば破壊された福島原発の原子炉内部の状況調査には欠かせないものになっていくでしょう。さらに医療や介護の現場でAI技術が恩恵をもたらすことを期待でき、産業界は全体としてAIに大きな期待を寄せています。

・だが、もちろんデメリットもあります。AIが人間に代わって仕事することになれば、人間の雇用が減少する様に思われます。しかしこの問題はかなり誇張もあるようです。本当のところはどうなのかもっとしっかり調べる必要があります。例えば、AIは人間に



は不可能に近い膨大な情報を処理し、客観的で正確な予測や判断ができるでしょう。だが医療は患者との生身のコミュニケーションが重要なので、医者は必要なくなるとは思えません。

・また、AIを有効に機能させるために大量の個人のプライバシーに関わる様々な情報を集めることになりませんが、そうすると自ずと情報管理のセキュリティの問題が生じます。加えてAIが常に絶対に正しい判断を下すとまで言うことはできません。例えば、自動運転で事故が起きてしまった際、誰が責任を負うのでしょうか。製造者にあるのか、車の所有者にあるのか、はたまた運転席にいた人物にあるのか。これは結構難しい問題です。どのようにリスクを管理するかという新たな問題が生まれます。

・また、先程話題にした対話形式のチャットAIの「活用」がもたらす問題も大きな問題でしょう。学生だけでなくいろいろな立場の人が、自分の頭で考えるこ

となく「答え」を得る。これで本当に考える力を向上させることができるのか疑わしいと言わざるを得ません。

・さらに、AIの軍事利用が問題です。国連の人権高等弁務官はAI技術が人権侵害を起こすこと、大量破壊に繋がりがねないことを警告しています。ウクライナの戦争でも攻撃ドローンが使われています。AIを使った自立型のキラーロボットなんかだともっと怖いものです。レベルが上がって、特定の集団を識別して攻撃することも可能となってくるでしょう。

・とはいえ、産業革命後に起きた機械を壊す行動(ラダイト運動)と同じように、AIを壊しても解決になりません。AIはあくまでも人間のために活用されなければなりません。リスクを軽減する努力を怠らないように進める必要があると思われませんがどうでしょうか。

## <意見交換>



\*昨日チャットGPTを使って、2015年に成立した安保法制は憲法違反ですかという質問を投げかけ、このAIに回答させた。AIの答えは、「私は言語モデルのチャットGPTで、法的アドバイスをすることはできません。但し安保法制については憲法学者や法律専門家の間で意見が分かれており、その合憲性について長期的な議論がなされています。…」不満の残る回答しか得られなかった。もうひとつ、英文を訳してくださいって頼むと日本語に訳してくれる。これは使えるかもしれない。

\*安保法制は正しですかという質問に、随分長い回答をしている。それにしても要約が上手い。大量の

データを4、5の要点にまとめる能力はすごい。ただ間違ったデータが沢山あると間違った回答をしてしまうかもという心配もある。

\*予めこういう質問にはこういう風に答えるんだってプログラムされているってことだと思う。ただ特定の価値判断は回避する。但し現実の生活の中で、一定の価値を選択ということがあって、我々はどれが正しいのかって決めながら生活している。AIはそういう判断はしない。選挙でどの党に入れたらいいのかとAIに質問しても答えは得られない。AIにできるなら、人間に代わって選挙で投票して貰った方が好いてことになる。



\* 医療の分野でAIはかなり成果を上げている。人間が見落としかねないものもAIなら見逃さない。AIなら瞬時に大量のデータから正確に判断することができる。またAIが短歌を作って人々を感心させたというニュースを耳にした。

\* AIは小説も書くことができる。審査員も人間の作品と見分けがつかないくらいちゃんとしたレベルの作品ができたらしい。AIがちゃんと意味を理解しているかということではない。ただ大量のデータから必要な要素を組み合わせで作っているのだと思う。チャットGPTでレポートを書くことは出来ても、そこに本当に新しいものがある訳ではない。

\* AIの能力には限界ある。またAIが使われることによる社会的な副作用もある。AIは統計学を応用し膨大な量のデータから確率計算で結果を推論する。文章を理解したりする能力はまだ乏しい。意味の理解を前提とする物語的思考はできない。だからAIはまだ人間存在を脅かすレベルに達してはいない。

\* AI技術の発展で気がかりな事は、AIを使える人とそうでない人の間に経済的社会的格差ができてしまうこと。今後AI技術はますます重要になって来る。この方向性を変えることはできない。だから今後AIを使いこなす能力を身につける教育制度の確立が求められる。

\* グーグルの翻訳機能を使ったことがある。まだ文章を理解する能力は不十分で、複雑なものには対応できない。機械的に言語変換を行っていて、その結果、全く意味を成さない訳文が出て来る事が少なくない。

\* AIは学習能力を備えていて、使われることで常に能力を向上させている。昔は確かに使い物にならないひどいものだった。文字変換機能は著しく進化している。音声を識別する能力も高まっている。そのうち人間の言葉を90%以上%理解するようになるのではないか。

\* AIが医師の国家試験に合格したという話を聞いた。とにかく与えられたデータを使いこなす能力において、人間は到底AIにかなわない。

\* イーロン・マスクがロシアの攻撃で国内のインターネットの使用が困難になっているウクライナに衛星を通じたネットサービスを提供している。マスクはチャットGPTを開発した会社の設立者の一人でもある。ウクライナのデジタル層の依頼を受けて戦争に協力している。

\* 現在既にドローンが戦争に使われている。人間は遠くの方でコントロールして、敵の部隊を攻撃し町を破壊する。戦争が間接的になって、当事者意識は無くなってしまって、ゲームをしている様な感覚になって、破壊がエスカレートすることが恐ろしい。自軍の犠牲者が少なければ、国民の支持を得やすくなるから、ますます戦争がやりやすくなる。

\* AIがやるべきことは人間の手に負えないこととか、人間の補佐のようなことに力を入れるべきで、人間に取って代わる必要はない。AIが人間の仕事を軽減して、今週5日働いているが、休日を週三日にして、羽を伸ばすことができれば好いかなと思う。

\* 教育全般について同じ様な事が言える。教育が客観的な情報の伝達に過ぎないならば、対話形式のAIを教室に置いておいて、学生の質問に答えさせ



るだけでも構わないってことになる。でも本来教育は単なる情報伝達ではない。人と人のかたちの刻み合い。個々の人格がぶつかり合いながらつながりを作って成長して行くプロセスである。

\*AIが人間に代わって出来ることは、経済的評価の高い、沢山の報酬を得られる仕事、銀行業務の投資や融資の判断、相対的にホワイトカラー的な仕事である。医者の仕事でも診断はできても、点滴の針を刺したり、痰を吸引したり、手を動かさないとできないエッセンシャルなブルーカラーの仕事は、人間がせざるを得ない。

\*AIなりスーパーコンピューターなり、問題は誰がこれを所有し、誰がこれを使うのかってことだと思う。それは集団または組織になるのか、国家になるのか。人々のために、福祉のために使われるなら結構ではないか。

\*自分自身AIに関して批判的な事をよく口にしているが、実はAIを活用して楽しんでいる。AIを人間とコラボさせると面白いものができる。初音ミクは自分のお気に入りである。

\*携帯やスマホもそうだったけれど、この分野の発展は止められない。携帯が世に出た時、一部の大人は子どもに持たせないようにしたがっていたが、無駄だった。問題はやはり誰が何のために使うかってことだろう。介護の分野で役立てるのは良いことだと思う。国家が国民を支配する道具に使うか、庶民が自分たちの生活に役立てるために使うか。

\*平和のために使って貰いたい。AI技術はデジタル社会、情報社会において、ますます重要なものとなっていくことが容易に予想される。医療の分野でも、介護の分野でも、人間を置き去りにしない形で役立てて欲しい。中国のIT企業の役割を廻って米中が今激しく遣り合っている。平和的な利用が重要である。



## <意見交流の最後に> 吉田千秋

・いつの時代もそうですが、どうあがいても技術の発展を止めることはできません。ただ誰が何のために使うのかをしっかりと把握する必要があります。常に人間の尊厳に配慮し、人間が人間らしく生きられる様に、社会正義とか、平和とか、生活の質の向上にAIが使われるようにしなければなりません。そのために社会の仕組みを確立することが必要だということは意見交流の中で明らかになったと思います。

・またAIを利用できるかどうかによって、一人ひとりの社会生活に大きな格差が生まれることのない様に、格差防止の対策が必要です。AIの進歩で医療や教育や労働、文化の面で、その恩恵に誰もが与えられるようにしなければなりません。既に色々な格差が生じています。例えば、スマホを持っていないと、地震情報などの様々な公共サービスを利用できない事が多々あります。

・これに加えてAI利用による差別が進展することのないようにしなければなりません。一人ひとりが大切



で、全ての人が人間らしく生きられることが重要です。私たち市民がつながりあって社会や政治に働きかけていく必要があると思います。今日は、AIに関しての事前の知識・情報格差があつて十分な意見交流ができるか心配だったのですが、多様な意見を出し合う事ができてよかったと思います。ありがとうございました。

## &lt;3月例会感想、意見、便りなど&gt;



## ○&lt;AIの使用による差別&gt;

今回のテーマについて、一番心に残ったことばが、AIを使いこなせる人と使えない人との格差です。スマホが使えないと行政の情報を知る事ができません。スマホでも格差があるのにAIとなるとますます職業選択や生活の質、そして収入の格差が大きくなると思います。また、平和と犯罪が離れていくのを感じます。もうすでにアナログ派の私は時代に乗り遅れてきぼりです。勉強しないといけないですね。

(子猫)

## ○&lt;必要なのはネット倫理&gt;

人間の数値の取り扱いは十進法である。三進法でも八進法でも良かったのに、両手の指の数に合わせて生活体験の中で十進法が形成されたのであろう。これを考案した人たちから独立して後世ずっと継続使用されている一つのシステム世界である。

コンピュータもまた「言語」で繋がったシステム世界である。ひとりひとりがパソコンを使用する時代から「言語」を使用して集団で使用するようになり、機器も大型から超大型へ、更には量子コンピュータも開発されている。このシステム世界は「言語」とハード機器を用いて誰でも使用できるよう解き放たれている。その状況のもとでは善用か悪用について、私が「誰が所有するか。誰が管理するか」の問題だと発言した。それは当然であるが、使用者が管理者の意図に反して動くこともあり、使用者の善なる「心構え」も形成されて行かなければならず、共通認識としての「ネット倫理」が必要かも。

(アダム・スミス)

## ○&lt;”ホットクック“を使ってみた&gt;

少し前からホットクックという電気のお鍋に食材がついて6か月レンタルというお得なキャンペーンがあったので利用して遊んでいます。とても便利で美味しくできます。コンピュータが自動調理してくれ、食材を入れてふたを閉めると「後の加熱は任せてね」というので「よろしくお願いします」と返事をしています。少し時間のかかる調理の時は途中で「一生懸命頑張っています」としゃべります。無線ランでつなぐと新しいレシピをダウンロードもできます。

記録されたデータで作られていることがリアルに想像でき、作るより買った方が美味しい時代になったのだなあと感じています。これから共働きが増え家事や育児を分担するようになると、自動調理機や掃除機などなど必要になってくるでしょうし、高齢者にとっても便利な物ではないかと思います。

ただし、お金がないと変えないし、そういうものがたくさん出て選択に困ったり、使いたくないのに使えないと仕事にならず、それに合わせざるを得ない時代になっていくのでは、と心配します。

(takako rantyu)

## ○&lt;思考の筋道が解明されなければ・・・&gt;

AIの議論で私が一番気になっているのは、令和2年8月の日経新聞の記事である。AIは人工知能にディープラーニングつまり深層学習を繰り返し、知識を深めることにより、結論を導き出しているという。それが機械学習の原理らしい。しかし、この「思考の筋道」は解明されておらず、AIの中身がブラックボックスだという問題点があるという。機械が仮に人命に関わるような判断を下す時に、判断を説明する責任があり、「AIが決めたから」では済まされない。

この問題を解決すべくアメリカを中心に「XAI」と呼





し「AIはアヘンなり」と言われる日が来るかも。  
また、生まれた子供の成長を見る時、「生みの親より  
育ての親」。AIを作り発展させるのは人間であり、そ  
の親が何を考え、何を教え、どのように働かせようと  
しているのか。地球の安全と世界の平和に貢献しよ  
うとしているのか否か、私  
たちは監視していく必要があると強く感じた次第で  
ある。  
(MS)

ばれる研究分野がある。「X」は“explainable(説明  
できる)”の意味で、人間の言葉や画像で推論の筋道  
を説明できる次世代型のAIだそうだ。  
記事より2年以上の時間が経過し、いまchatGPTが  
注目を浴びる中で、この議論がどこまで進み解決に  
至ったのかどうかは知らない。思考の筋道の説明で  
きてはじめて、人間が判断することになり、決して機  
械任せにしてはならない。

(ryosa)

### ○<AI技術の拡大にあがらうことは不可能>

AIに代表されるデジタル技術が我々の生活の中で  
拡大することに抗うことは不可能で、自分を含めた  
年寄りにはますます生きづらい社会になっていくこ  
とが再認識された例会でした。

こうなったらデジタル技術と関係のない第六感を  
鍛えるしかないなど妄想していたら、シリコンバレー  
銀行が破綻したというニュースが飛び込んできました。  
この破綻が大恐慌につながっていくかどうかは、  
人々の金融システムに対する信頼性という共同幻想  
が維持されるかどうかにかかっている。だが共同幻  
想なんていう数値化できないものに対してはAIは無  
力だと思いますし、チャットCPTを使ってもだからど  
うなんだという解答しか得られないでしょう。

この状況への対応策は人間の冷静で総合的な認識  
力と、過去の歴史[特に1929年前後]からの学びし  
かないのではと感じ、人間の生き残る道もその辺に  
ヒントがあるのかもしれないと思いました。

(たなか)

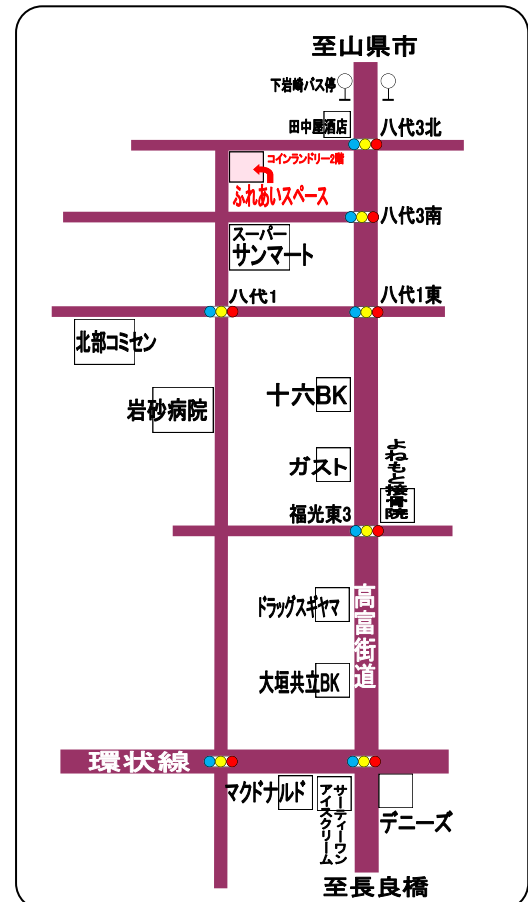
### ○<AIの成長をどう見守っていくか>

今回のカフェで、いよいよ「AI革命」の時代がやって  
きたという印象を受けました。この文明の利器を敬  
遠したり恐れたりするのもよくないが、AIに全面降  
伏して、依存症になってしまうのも危険である。しか

## 例会会場案内



例会への事前申し込みは不要です



## <この一冊> 寺島実郎著

『ダビデの星を見つめて—体験的ユダヤ・ネットワーク論—』(NHK出版、2022.10刊)

今次の目を覆うばかりの惨事となっているウクライナ戦争は、はや一年が経過した。ロシアによる侵略とウクライナの反撃は日々解説付きで生々しく伝えられてきた。しかしながら、そこに至る客観的経緯は、未だ闇の部分が多い。その中に、当初注目された米・NATOの関与や、米・露・ウでのユダヤ・ネットワークの絡みなどの不明部分があり、昨今話題のノルドストリーム爆破事件も含めて、真相解明が不可欠だ。

ここで取り上げた寺島実郎氏の論考は、国際的な事件が発生するとしばしば語られる「ユダヤ陰謀説」がなぜ生まれるのか、どうとらえたらいいか、に関わる興味深い考察だ。氏は三井物産調査部などの職務として、中東のイスラエルや大きなユダヤ人コミュニティーがあるニューヨーク等において、政財界の中核で活躍するイグゼクティブに接してきた。その体験から、彼らの政治力・経済力獲得の法則性(?)を掴んでいる。

長くなるので結論だけになるが、彼らは、生来の秀でた才能に、自分の付加価値をマックスにする研鑽を怠らない結果、グローバル時代に求められる先見性を備

えた「補佐官」役に就くことが多い。その際は、必ず個として、公正・公平を貫くよう慎重に行動する。氏はそれが受難の民族史からきていると見る。

戦後の米政界で強い影響力があったと言われるユダヤ人は、シュレジンジャーとキッシンジャーだといわれ、前者はタカ派のブレーン、後者はハト派のそれとして、時の権力に使い分けられたと解説。今次の戦争の一誘因とも言われるNATOのウクライナ取り込みに、キッシンジャーは強く反対していた。米政治が冷戦思考に戻りつつあったのかもしれない、と。それがひいては彼らが米などの安全保障政策にどのように影響を与えているかを理解する手立てにもなる。

(大橋健司)



## この一劇「芝居を観ませんか・・・ロバール・トマ作『罨』」

生の役者の舞台を観る、観られる役者は客の反応に応えてさらに舞台が盛り上がる。芝居を観ていると時々そんなことを感じる。映画と違っていつも同じ方向から、時には遠くからしか舞台は見られないが、役者の息づかいを感じ、気持ちドラマに入り込む、生の舞台には不思議な力がある。

しかし演劇にはお金がかかる、稽古から公演終了まで役者やスタッフを拘束し「ギャラ」を支払わなければならない。およそ演劇に関わる人たちは作家から裏方まで、誰もが夢を持ち観客に伝えたい思いがあるが、お金がなければ(お客がいなければ)どうしようもない。逆に、観る側にとっては劇団(公演)がなければ芝居が見られない。

そんな両者をつなぐのが各地の演劇鑑賞会(労演)で、鑑賞会は戦後の日本演劇を支える役割を果たしてきた。幸か不幸か鑑賞会のシステムは年間6作品中、自分の観たい芝居だけ観る(お金を払う)わけにはいかない。しかしあまり興味なかった作品も、実際に舞台を観ると結構面白いものが不思議に多い。

かつて会員だった人もそうでない人も、労演と一緒に

芝居を楽しみませんか、芝居は私たちの心をきっと豊かにしてくれます。

岐阜労演次回例会は、5月18/19日  
ロバール・トマ作『罨』です。

アルプスの山荘で新婚の妻が突然失踪。呆然とする夫の前に神父が連れてきた妻は見知らぬ他人。本当の妻はどこへ？ 幾重にも作家が仕掛けた「罨」と「罨」、その罨を見破るのは誰か。労演では珍しいミステリーです。

問い合わせは労演事務所(058-263-4396)まで。

(井川敏郎)



哲学カフェ 第29期(2023年前半)例会予定 \*毎月第2木曜日、午後7:00~9:00

ふれあいスペース⇒コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第177回例会 3月9日(木)	「人工知能(AI)は人間社会にどのような影響をもたらすのか？」 *人間の言語や判断能力を組み込んだ人工知能(AI)は、急速に進歩し、様々な分野で、 *AIは人間の手助けから、人間に取って代わって多くの分野で人間を不用にする…その功罪と	<b>終了 しました</b>
第178回例会 4月13日(木)	「子育て支援はどうあるべきなのか？」 *政府は「異次元の子育て対策」と銘打っているが、どうやら「空次元」。 *必要なのは、一時的な補助金ではなく、恒久的な支援策、制度ではないか。	
第179回例会 5月11日(木)	「日本が世界に貢献できることは何なのか？」 *5月19日から、G7サミットがヒロシマで行われます。さて何をなすべきか。 *唯一の戦争被爆国日本のなすべきこと、9条を持っている日本がなすべきことは何か。	
第180回例会 6月8日(木)	例会テーマ 提案願います	
第181回例会 7月15日(土) or 16日(日)	設立15周年記念行事 記念行事の内容(講演など)について提案願います。	

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしく願います。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



★先日「岐阜・九条の会」主催<サロン9条>で、いま問題になっている「学術会議法改正」問題を話し合いました。この改正案の目玉は「選考諮問委員会」を設け、学術会議会員の選考に政府に気に入らない候補を拒否できるようにすることです。

★この問題は、先年菅前首相が学術会議から推薦のあった会員105名の内6名を任命拒否したことに繋がっている。今までは慣例で拒否されたことはなかったのに、この人たちは、いわゆる「戦争法」などに反対しているから拒否されたのだと言われています。

★だが、なぜ拒否したのかの根拠を首相は示しませんでした。これを受け継いだ岸田内閣も一切の説明をしていません。そうした強権的姿勢を改めないで、なおか

つこれを正当化する仕組みを作ろうとするのが今回の改正案です。

★学術会議の元会長たちはのみならず、様々な学会や市民から批判、撤回の声が上がっています。というのも、これが採決されると憲法第23条保障されている「学問の自由」が根底から剥奪されるからです。

★実はこの条項は「学問の自由は、これを保障する」と明記され、憲法条項で一番短いものです。一切の条件が付されていないことが、戦争によって学問が国家のために無惨に利用されたことの痛切な反省を物語っています。

\*こういうことが再びやってこないようにしたいものです。と同時に、「学術会議のことを始めて知った」という参加者もいました。学術会議、大学の関係者も、そしてボクも、「学問の自由」の大切さをもっと多くの人たちに知らせなければ、と思いました。

(吉田千秋)